

「住み続けたいまち」をめざして！

志津まちづくり協議会 会長 山元 忠三

本協議会では、草津市の“新しい住民自治の仕組み”であります「住民による地域ぐるみのまちづくり」の主旨に則り、「ふれあい 支え合い 住み続けたいまち」をめざして、町内会・自治会や組織・団体を包括した住民協働組織による多くの事業を展開しております。

特に、【地域課題に向けての行政への提言と要望活動】では、①「山手幹線の早期整備」や②「草津川上流部の平地河川化」③「国道1号草津川トンネル撤去後の草津川跡



地利用」④「国道1号交差点（伯母川新橋付近）のインターチェンジ方式の整備促進」などについて、引き続き滋賀県や草津市に要望していく考えであります。

【福祉のまちづくり】では、福祉部における町内会長委員会や志津社会福祉協議会、民生委員児童委員協議会等の連携による「敬老のつどい」を町内会・自治会ブロックごとに実施し、より多くの高齢者による“ふれあいと親睦の輪”を広げていきます。また、「災害時要援護者登録制度の研修」を通じて、災害時における要援護者への介助のあり方を検討します。また、「安心のバトン」事業における70歳以上のひとり暮らしの現状把握に努め、孤独に陥りやすい環境の軽減を図ります。

そして、従来からの「志津ふれあい区民運動会」や「志津ふれあい広場」「志津学区自主防災研修会」「志津わんぱく協働合校」等の実施とともに広報紙「志津まちづくり通信」の発行を計画しています。

どうか、引き続き本協議会の運営に対し、ご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

会則第12条に「本部」を定める 定期総会

4月25日(土)に志津市民センターにおいて平成27年度「志津まちづくり協議会定期総会」を開催しました。

当日は、施行細則に定める組織・団体代表者等37名全員の(委任状8名含む)出席を得ての総会となりました。議案の主な内容は、会則の第12条に「本部」の位置付け、第19条に「会議の傍聴」を定める会則の一部改正を行いました。

また、平成26年度事業および収支決算・会計監査報告、平成27年度事業計画および収支予算など7議案を協議し、総て可決されました。



3団体の名称を変更 理事会

4月11日(土)、平成26年度役員による理事会を開催しました。

協議内容は、定期総会の議案および施行細則・内規の改正です。

主な内容は、総会の7議案についての協議と志津地区老人クラブ連合会の解散や子ども会指導者連絡協議会・健康推進員連絡協議会・少年補導委員会3団体の名称の「地区」を「学区」に変更する施行細則の改正、条項や文書表現の整理による施行内規の一部改正などで、理事会の承認を得ました。



※平成26・27年度事業関係、会則については別途に配布します。また、議事録はホームページに掲載します。

楽しく参加しました！

第1回ワークショップ

本協議会では、志津地域の将来像の実現に向け、「志津まちづくり計画（平成25～27年度）」を作成しています。

今年度は、この計画の見直しの題材とするため、5月15日（金）に志津市民センターにおいて、「ワークショップ」“まちの中で何が好き？何が気になる？”を開催しました。

当日は、草津市コミュニティ事業団による司会進行によって、和やかな雰囲気の中、町内会・自治会会長や、団体の代表者など26人が5グループに分かれ、個々に「志津」の好きなところ（プラスイメージ）、気になるところ（マイナスイメージ）を付箋に記入しました。毎日の生活の中で、志津のことを真剣に考えながら暮らしている人はど

れだけおられるでしょうか。なかなか筆が進まない人、次々と記入する人など様々でしたが、「自然がいっぱい」「車の通行が激しい」「スーパーがある」など20分間



意見のとりまとめ

で、1グループ付箋70枚～80枚の思いや考えが出そろいました。

その後、各グループごとに項目（自然・環境・子ども・高齢者など）を付けて模造紙にまとめ、代表が発表しました。

参加者からは、「楽しく参加できた」「同じ志津の中でもこんなに捉え方が違うの」など、気付くことがいっぱいありました。

今回出された意見は、「志津まちづくり計画」の見直しに活かしていきたいと考えています。



グループ発表

町内会長委員会を開きました

町内会長委員会を5月18日（月）に開催しました。今年度は、原則毎月第3月曜日に開催する予定です。

本協議会組織での町内会長委員会の位置付けは、「地域住民の皆さんと直結した組織」であること。その役割は、各町内会・自治会の意見収集や情報の共有、連絡網の充実、地域環境の保全、防災・防犯への取組みの他、市との関係の構築についても重要であると考えます。

このことから、毎年行う市長とまちづくりトークでは、地域における課題等の解決に結びつける意見交換を行い、ごみの不法投棄においては、監視活動を行うとともに住民マナーの指導徹底等を行政に働き掛けています。

また、人権教育等の取組みでは、人への思いやりを育むこと、特に家庭における思いやりの大切さを感じています。

当委員会は、本協議会の一翼を担い、様々な問題解決に立ち向うとともに、自分たちで考え自分たちで問題を提起し、「住み良いまち 住み続けたいまち」をめざして活動していきたいと考えています。

（町内会長委員会 委員長 中井 守）

「一般公開ケース研究会」を開きます

草津市更生保護女性会の今年度の活動方針を基に、犯罪・非行の態様が複雑多様化する最近の犯罪情勢を踏まえ、更生保護の一端を担う志津地区更生保護女性会は、今年度で第65回となる「社会を明るくする運動」を推進しています。

その一環として、地域の方や関係団体と連携しながら、来る7月18日（土）に「一般公開ケース研究会」や「ミニ集会」を開催し、犯罪予防と青少年健全育成等、世論の啓発に努めていきたいと考えています。

一人ひとりが人として尊重され、社会の一員として連携し心豊かに生きられる明るい社会をめざすことが大切です。更生保護女性会の使命は、世に更生保護の心を広め、次代を担う青少年の健全な育成を努めることです。

これら活動の根底には、あたたかな人間愛が必要だということを忘れてはなりません。このことを自覚した上で、過ちを犯してしまった人たちの更生の支えとなれるよう、自己研鑽に励みます。



昨年的一般公開ケース研究会

（更生保護女性会 白杵 照代）

地域性に合った福祉活動

日ごろは、当協議会の活動に対しまして、ご支援ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

今年度、当協議会は自然豊かな志津で、人とひととの結びつきを大切にして、人にやさしいまちづくりを目指しています。また、「ふれあい 支え合い 住み続けたいまち」の基本理念に基づき、安心して住み続けていくことができる福祉のまちづくりを進めて行くため、協働のまちづくりと相互に連携を取りながら、きめ細かに遂行できる積極的な活動を計画いたしました。

活動計画

心温かくふれあい、支え合い、住み続けたい、福祉のまちづくりを推進するため、当協議会を構成する団体が、地域性に合った福祉活動を進める。

◇地域・ボランティア部会の活動

(1)身体障害者更生会志津分会員、民児協、まち協、社協との郊外交流会

- 身体障害者更生会志津分会員、家族、70歳以上のひとり暮らしの方との交流研修
(四日市市ユラックスと周辺散策)

(2)高齢者・障害者団体との交流ふれあいサロン

- 70歳以上のひとり暮らしの方、身体障害者更生会志津分会員、民児協、社協との郊外交流
- 70歳以上のひとり暮らしの方、更生会志津分会員、民児協、福祉推進委員、健康推進員との交流会
- 園児とクリスマスのつどい、70歳以上のひとり暮らしの方、身体障害者更生会志津分会員との交流会

(3)高齢者福祉対策

- 70歳以上のひとり暮らしの方の現状把握と見守り



「人の役に立ちたい」を行動へ！

皆様には、日ごろから赤十字活動・社資募集にと温かいご支援ご協力をいただきありがとうございます。

日本赤十字社では、「苦しんでいる人を救いたい」という思いを、次の9つのかたちにして事業を展開しています。

- ①国内災害救護②国際活動③社会福祉④血液事業⑤赤十字病院⑥看護師等の教育⑦救急法の講習⑧青少年赤十字⑨地域赤十字奉仕団活動

赤十字奉仕団活動は、赤十字のボランティア活動を通じて地域社会に貢献したいという思いを持った人々によって組織されたボランティアグループで、赤十字奉仕団志津分団は、そのグループの一つです。

志津分団は、現在47名の団員で活動しており、最近では入会者が少なく、また団員の高齢化等減少の続く厳しい状況の中、事業活動を行っております。

を目的に誕生日祝を届ける

(4)一人親家庭の児童に小学校入学祝の支援

(5)福祉研修講座(やすらぎ学級と共催)

- 講義「防犯講座」～振り込め詐欺にあわないために～

◇福祉推進部会の活動

(1)地域福祉交流懇親会

- 町内会・自治会長、福祉推進委員、社協理事と地域福祉の課題やふれあう場について交流研修

◇「お互い様」のまちづくり事業

今後ますます高齢化が進む中、「一人ひとりを大切に、認め合うまちづくり」「孤立させない、地域での見守り」の具体的な実践が必要である。

独居老人や老老介護など、支援のあり方を住民抜きにせず、「お互い様」の意識を高めるために高穂地域包括支援センターと連携を取りながら、地域の実情を把握する目的の支え合いマップづくりの推進と先進地視察で情報の共有を図ります。

(志津社会福祉協議会 会長 宇野 敬造)



園児とクリスマスのつどい

「奉仕団員の主な活動」

- ・献血の推進、赤十字指導講師による講演、救急・防災訓練等の研修、学区・社協等の行事に参加
- ・団員の親睦を兼ねた一泊研修、皇居の勤勞奉仕

◇志津分団今年度の活動計画◇

- ・県血液センター・西消防署コミュニティ防災センターでの体験研修、赤十字奉仕団活動の啓発、学区内福祉施設への訪問、志津ふれあい広場への協力・参画

<団員募集>

赤十字活動は地道な活動ですが、「人の役に立ちたい」「ボランティアとして自分のキャリアを活かしたい」という男性・女性の方、男女を問いませんので奉仕団で小さい一歩からボランティアを始めてみませんか。

「一人の思いは小さいけれど集まればそれは力に変わる」魅力ある奉仕団として身近な活動に邁進して参ります。



日本赤十字社公式
マスコットキャラクター
ハートラちゃん

(赤十字奉仕団志津分団 西川 修子)



避難の準備はOKですか？

馬場町町内会

馬場町町内会では、5月24日(日)に市危機管理課の指導により、土砂災害避難訓練を実施しました。市内の土砂災害警戒区域の大半を志津学区が占めており、今回市内で初めて、馬場町町内会が訓練に参加しました。

訓練は、滋賀県から対象指定された馬場町内の3軒に、避難準備の連絡が入ります。連絡のあった所は避難の準備をし、自宅待機をします。その後、市危機管理課より避難の指示が出され、各家族は、避難所として開設した馬場町会館へ避難するものでした。



今回の訓練は、初めての体験でしたが、速やかに行動、避難できたように思っていますが、今後の課題として、高齢者や要援護者等の避難については、地域で相互に助け合い、協力していく重要性を感じました。

また、避難訓練の終了後、馬場町婦人自衛消防隊による火災の初期消火・放水訓練を合わせて行いました。
(馬場町防災委員 山中 尚治)



安全運転してネ！

草津栗東交通安全協会志津支部・志津地区交通安全会

初夏を思わせる5月8日(金)午前10時からJA志津支店前駐車場で、ジュニアポリスの制服を着用した園児が、額に汗をにじませながら「交通安全運転」を呼び掛ける取り組みを行いました。

母の日を前に「安全運転してネ」とやさしく声を掛け、地元で栽培されたカーネーション約200本をドライバーに渡しました。ドライバーは「ありがとう」とにこやかに言葉を返し「交通安全の意識向上と交通事故防止」に心掛ける決意をされた様子でした。最後は、マスコットの「けいた君」と記念撮影をして散会しました。

(草津栗東交通安全協会志津支部 奥村 平一)



安全運転してネ

「もしも…」のときの「安心のボタン」お持ちですか？

福祉部



安心のボタン(見本)

本協議会福祉部では、みんなで支え合える地域をめざして「志津まちづくり安心のボタン」事業を展開しています。「安心のボタン」は緊急連絡先やかかりつけ医などの情報を保管できる半透明(写真参照)の筒型の容器です。緊急時に、本人が意思表示できない状態でも、救急隊員などが安心のボタンの中身を確認することで、いち早く適切で迅速な対応につなげ、命を守ることができます。

また保管場所をどの家庭にもある「冷蔵庫」にすることにより、掛けつけた人が見つけやすくするとともに、ボタンの中身が重要な個人情報であることから、比較的他人の目に触れにくい冷蔵庫を保管場所としました。

対象は、志津学区にお住まいの70歳以上のひとり暮らしの方で、無料で配布しています。ご希望の方は本協議会または、お住まいの地域の民生委員・児童委員までお申し込みください。

(福祉部副部長 服部 孫司)

★あなたの経験を生かしませんか★

地域活動にご協力をお願いします。志津のまちづくりの様々な分野で、あなたの経験を生かしてみませんか。

「志津ふれあい広場」の運営スタッフ、ホームページの作成、広報紙「志津まちづくり通信」の企画・写真撮影等取材・文書作成など。
※現在、地域ボランティアとして地平寛治さん(広報紙編集委員:追分町)と寺尾信一さん(広報紙・ホームページ編集委員:青地第二)に活動していただいています。



《事務局職員紹介》 よろしくお祈りします！

今年4月1日より下記の3名が、事務局職員として、志津のまちづくりの一翼を担わせていただいています。地域の皆様のご支援ご協力をお願い申しあげます。

事務局長 吉田 和子
事務局員 政川 純子
" 東井 安子

